

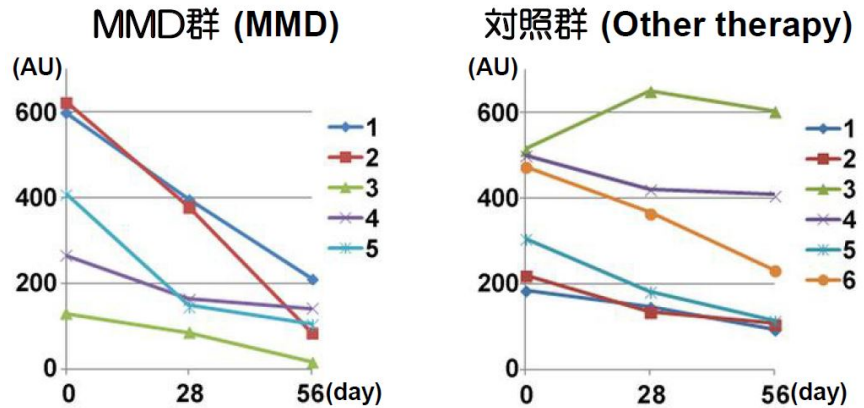
治療に苦慮する象皮様の慢性皮膚炎に対するステロイド外用パルス療法

----- MMD 療法の紹介 -----

今回は治療法の骨子をそれぞれ解説します。

まず、治療性成績を見て下さい。CADESI-03 スコア：治療群と対照群、というグラフです。MMD 療法では、劇的にスコアの改善がみられます。一回成功すると病みつきになります！

CADESI-03スコア：治療群と対照群



治療の対象ですが、慢性増殖性皮膚炎です。こんな病名聞いたことない！でしょうか。

治療の対象は、“慢性の象皮様”となった堅く分厚くなった皮膚です。このような病変に対して、皮膚の肥厚、“脂漏性皮膚炎”、表皮の過角化、重度のマラセチア皮膚炎、もう少し捻った解答ですと、ダックスフンドの黒色偽性表皮肥厚症（両側性・対称性の腋窩～上腕内側部における色素沈着を典型とする疾患）とも表現が可能でしょう。ここでは、犬と猫の皮膚病・第2版に記載のある“慢性増殖性皮膚炎（Chronic hyperplastic dermatitis：CHD）”という名称で統一します。

本日のポイント紹介！

1 週間に1度必ず病院に来院していただくこと

2週間ごとではあまり芳しくないのです。まだ1週間毎と2週間毎で治療成績を比較はしていないので断定できません。しかし、掻破を続けることが皮膚の増殖を刺激する、というのが理由（筆者の経験的推論）です！ですから、来院までの期間の間に掻破を朝から晩までされてしまうと、皮膚の分厚さは元通りになるのでしょうか。しかも、相手にしているのは来院間隔を空けたがる飼い主さまです（全員でないですが・・・）。

慢性の象皮様の皮膚炎（慢性増殖性皮膚炎）が生じる原因を考えてみてください。よく経験するように、マラセチア皮膚炎が治らないからでしょうか。マラセチアシャンプーやケトコナゾール内服で治療すると大概の菌はテープストリッピング検査で認めなくなりますよね。ですから、マラセチア皮膚炎のせいではないのです。

しかし、放っておくと再度マラセチア皮膚炎になります。つまり、答えは“飼い主さまがこまめに治療に参加していただけていない”ことなのではないでしょうか？

**イラストで学ぶ
早わかりMMD療法**

皮疹部全体にモメタオティック®をまんべんなく塗りましょう

3時間、モメタオティックを舐めとらないように、おとなしく待っていて！

マラセブ®シャンプーで外用剤を洗い流しましょうね

タオルドライして乾かしましょうね。温まらないように、ドライヤーを使っても良いよね。

皮脂が落ちてしまったので、ダームワン®でしっかり皮脂の補充をしましょう。

MMD 療法は実は飼い主さまの代わりにケアを病院側で請け負うことが“重要な骨子”なのです。

今回は、MMD 療法の各段階におけるコツ（筆者の病院で行っている手技）をひとつずつ紹介していきます（一気に紹介しません・・・）。